

Title	日本語・日本文化 第49号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 2022, 49
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/87452
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

執筆者紹介

中田 一志	本センター教授、 バスク大学客員研究員
薦 清行	本センター准教授
高井 美穂	本センター准教授
松岡 里奈	本センター特任助教
中谷 真也	本センター特任助教

編集後記

2021年4月の箕面キャンパス移転に伴い、本誌発行は箕面船場という新たな地からのスタートとなりました。この記念すべき第49号には、言語、文化、教育など多分野からの投稿があり、研究論文と研究ノートを含わせて4本の論考を掲載することができました。

中田氏の研究ノートは、接続助詞「から」「ので」に関する従来の研究の不備を補うことを目指し、I-JASの対話(Interview)コーパスを用いて日本語母語話者同士の談話における「から」「ので」の使用を精緻に記述しています。薦論文は、古典の注釈書である「抄物」が、文化的資料としてどのように用いられているのかを明確にしたものであり、特に五山禅僧たちの文芸評価を具体的に挙げながら論じた貴重な論文です。高井論文は、進路の選択をめぐる雑談の中で会話参加者らが「悩みを語る」行為を通して共- 成員であることに指向しているということを指摘したもので、日本語の会話教育に資する内容となっています。松岡・中谷論文は、本センターの遠隔授業見学システムが日本語教育実習生の主体的な学びにつながっていることを検証しており、本センターが担う日本語日本文化教育関係共同利用拠点事業の今後の発展可能性が示唆されています。

今後も本センターに関わる皆様から、日本語・日本文化に関するさまざまな論考を、ここ箕面船場から発信していきたいと思えます。そして、本誌がより多くの方々に参照されていくことを願っております。

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
 2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
 3. 体裁：研究論文はA4用紙35字×35行20,000字程度（欧文はA4ダブルスペース30行10,000語程度）、研究ノート・研究報告は10,000字程度（欧文は5,000語程度）。
 4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
 5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定。
-

編集委員

岩井 茂樹 小森 万里 山川 太

日本語・日本文化 第49号

2022年3月10日 発行

編 集 大阪大学
発 行 日本語日本文化教育センター
〒562-8678
箕面市船場東3-5-10
電話 (072) 730-5459
FAX (072) 730-5074
印 刷 株式会社アイジイ